

# 故矢野建一学長を偲んで



去る平成 28 年 4 月 25 日、専修大学学長・育友会名誉顧問 矢野 建一 文学部教授が急逝されました。あまりに突然のことで、何と申し上げたらよいのか、ことばが見つかりません。矢野先生は、私が育友会長に就任した当初から「色々大変でしょうが、協力しますので、頑張ってください」と励ましてくださいました。そんな優しい先生のお姿が今でも目に浮かびます。

矢野先生のご生前のお姿やお人柄を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

育友会相談役 本多英夫

## 悼む声、届く

5月9～13日の期間、生田・神田の両キャンパスに設置された遺影台には、多くのメッセージが寄せられました。その言葉は生前の人柄や、仕事ぶりが偲ばれるものでした。ごく一部ではありますが、紹介させていただきます。

「学生時代、先生の授業が本当に好きでした。分かりやすく、知らなかったことにも興味が湧くよう素敵な授業でした。授業以外で他愛ない話をしたことも私の中では宝物です。専修大学に入って先生に出会えてよかったです。これから先もずっと、私にとって素晴らしい先生です。」(卒業生)

「卒論を書くために矢野先生の研究室へ通ったことを昨日のことにように思い出します。ゼミ合宿での話

や講義、大好きでした。先生のもとで学んだことしっかり覚えています。ゼミ生であったことを誇りに思っています。」(卒業生)

「とにかく今の私があるのは先生のお陰です。先生にいろいろ教えていただきました。学長になって専大を変えてくれるのも楽しみでしたが…。ゆっくり、また研究を続けてください。」(学生)

「入学式での学長の言葉に、これから始まる専修大学での4年間で頑張ろうという思いが湧きました。」(学生)

「いつも穏やかな笑顔で右手を軽く上げて挨拶される姿が今でも目に浮かびます。先生の日本史概論の授業とゼミはとても興味深く、楽しかったです。天国でも大好きな古文書をたくさん読まれて過ごされることをお祈りいたします。」(卒業生)

「なぜこのような理不尽なことが起こってしまったのでしょうか。慟哭するしかないのが無念です。」(教員)

「お別れの言葉がどうしても見つかりません。悲しみばかりが噴出してしまいます。本当に本当にお疲れさまでした。」(教員)

「研究や公務の中、小さなイベント

にも足を運んで下さる先生の温かさは、現場で働く者にとって大きな励みとなっております。それだけに淋しく感じております。」(職員)

「いつもニコニコと笑いながら「元気ですか?」と声をかけて下さいました。気さくなお人柄で温かい先生でした。」(職員)

「先生がお亡くなりになったことが未だ信じられません。明日になれば普段通りにお会いできるような気がしてなりません。何一つ先生の恩に報いることができず、申し訳ありませんでした。先生の遺志を継ぎ、専修大学の発展に貢献することで恩返しにさせていただきます。これまでありがとうございました。」(職員)

6月25日(土)には、東京都千代田区のホテルグランドパレスにて「お別れの会」が催され、多くの方が追悼に訪れました。



神田キャンパス遺影台



お別れの会にて献花する育友会役員